

鳴らし労働歌を高唱して思ひくの示威運動を始め、一部の職工二千名を除く外、一方に餘る全職工は全然就業せず喧々囂々裡に一時間を過ぎ八時頃、前日青標隊に棍棒（ハンマー）の柄を倉庫より取り出させ貸與せし事實洩れしたため全職工より仇敵視されつゝありし造船工作部山川係長が同工場階上に姿を現はすや職工等は「ソレツ」と許り雪崩れ寄り包圍し鐵片を雨と飛ばす凄じき勢ひに山川係長は度を失ひ階上窓より飛び降り辛くも本社地下室に避難したるが「山川を出せ」の怒號罵聲絶えず、危険身邊に迫れるため同技師は密かに歸宅すべく本社を脱げ出で俾にて歸路に就けるを知れる數百名の職工は一團となり之を追跡し、東川崎小學校横手に追迫り係長は再び重圍に陥らんとする形勢に伸を飛び降り傍のバン屋鳴戸方へ逃げ込むや労働者は喊聲を揚げ殺倒し屋内へ混み入らんと轟めける折柄、朝來警戒中の相生橋署警官、急報に接し數十名驅け付け漸く鎮壓し、係長を保護歸宅せしめたるがバン屋鳴戸方は戸棚其他の硝子を碎かれ山川技師は前記工場より飛び降りたる際左足を挫傷したり事態斯くの如く險惡なるため會社は、前記作業中の一部職工二千名に對し休業を申し渡し退場せしめたり、各工場一万餘の全職工は十時前後より「死すとも戦へ」「會社の不合理を糾弾せよ」等記したる旗差しもの、メガホンに隊伍を整へ西門より出場し十一時過ぎ全部退場整然たる秩序の下に宣傳、示威の運動に移り左しもの大工場に亦職工の隻影を止めざるに到れり

**兵庫分工場状態** 兵庫分工場鑄鋼科職工は七日各組より三名宛合計百餘名の實行委員を選び罷

業團を組織して明治通の明和俱樂部に罷工本部を置き八日朝來工場へ入らんとするものに對し工場の門前に張番せる實行委員之を阻止し遂に入場者を見ず機械、木工、飛行機、自動車的全職工は早朝來今福の空地に集まり労働歌を高唱し纏て三千餘の職工は長旗數十を押し立て隊を作りて示威運動を行ふ。

**各部一齊に起つ** 川崎造船所に於ける造船、造機其他の職工幹部等約五十名は八日午後七時より友愛會、神戸聯合會本部階上に集合、提出要件の統一を圖るべく種々協議を凝らし十一時散會したるが其結果造船、造機、旋盤、組立、道具とも電正會と同一の要求を九日午後二時提出し來る廿日までに向答を促す事を決議せり。造船工作部の組伍長三百名も奮起し六名の交渉委員を選び役附以下の職工と同時に同一の要求を提出することに議定したり。

**電正會の經過發表** 川崎造船所に於ける爭議の先陣を承れる電正會は左の如く、巨細なる經過顛末書を八日付發表したり。全文左の如し

### 労働爭議の經過顛末

今回の爭議の動機は六月廿七日會社の上半期賞與發表に始まる。職工に配附された賞與は豫想以上の少額であつたのみならず頗る公平を缺き且つ二十五週年紀念祝賀分配金と稱するものが勤続年数を標準とせず又各人の能率勤怠等にも顧慮せずして不當なる差別を附せられた、め電氣工作部職工は憤慨の結果翌二十八日怠業状態に陥つた。茲に於て同部職工一同を以て組織する電氣工組合電正會の幹部（青柿、伊藤、濱崎其他）は工作部係員に其處置を相談した處係員は「我々は手の附けやうがないから一同事務